

平成30年度 上伊那圏域地域自立支援協議会議事録

会議	部会名	第3回 重心・要医療的ケア 部会	参加者数	35人	会場	伊那市 福祉まちづくりセンター 2階 大会議室
	日時	平成30年12月14日(金) 13:30 ~ 15:15				
主テーマ	<p>1 前回の伊那養護学校つくし進路福祉懇談会の振り返り</p> <p>2 医療機関や福祉サービス事業所への重心児者の受け入れ拡大について</p> <p>3 難病の方への取り組みについて</p>					
主な意見など	<p>1 について(懇談会の内容については、第2回重心・要医療的ケア部会議事録をご参照ください)</p> <p>(1) 伊那養護学校つくしグループ伊藤教諭より</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加者からは重心児保護者の声や要望を聴くことができ、とても参考になった。保護者からも日頃の思いや悩みを多くの皆さんにお話できてよかったとの声が多く寄せられた。双方にとって有意義な会だったと思う。 今年度から授業参観で子どもたちの様子を見ていただく機会を設けた。今後も継続したい。 部会の目標や地域の願いにも寄り添いながら、学校としても懇談会をさらに充実したものとしていきたい。 <p>(2) 意見交換(保護者からの要望等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 辰野病院の入浴利用ができるようになった。卒後相談に行政の方が親身に関わってくださりありがたい。 放課後等デイサービスや生活介護事業所での受入拡大、入浴の受入、看護師派遣等が進んでほしい。 医療的ケアが必要な子どものためのコーディネーターを圏域に配置してほしい。 →重心児者のコーディネーターについては、県の療育部会重心ワーキンググループで養成研修がスタートしており、上伊那からも7~8名ほどが受講中である。今後、こうした方々とも連携していきたい(事務局) 重心児者の計画相談を担当する相談支援専門員さんにもぜひ部会に参加していただけるとありがたい。 <p>2 について</p> <p>(1) 医療機関や福祉サービス事業所の訪問について</p> <p>ア 医療機関の訪問について(事務局より)</p> <ul style="list-style-type: none"> H30.7.25、駒ヶ根市の前沢病院を訪問、懇談。院長は前向きで好感触。ただ、小児科専門でないため、看護師長等とも相談の上、本人の状態や必要な対応等を踏まえ検討したいと回答があった。 H30.10.11、駒ヶ根市の秋城医院を訪問、懇談。医師は前向きだったが、看護師等現場職員は慣れない業務であるため、研修受講等でスキルアップを図るなど受入態勢を検討させてほしいと回答があった。 H30.10.29、伊那市のみすず診療所を訪問、懇談。麻沼医師は前向きで、重心児者のレスパイトやショートステイの必要性に理解があった。ただ、母体のJA長野厚生連の届出が必要で、他の老健施設との兼ね合い、また看護師長からは保護者と十分意思疎通がとれることや受入態勢の検討が必要と回答があった。 →西箕輪診療所の井上医師(富士見高原医療福祉センター名誉院長)にも話してみたいとのことで、近日中の訪問を予定している。なお、厚生連の理事会でもこの話題が取り上げられたとの報告があった。 <p>イ 福祉サービス事業所の訪問について(事務局より) ※事業所の写真を映しながら、報告があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> H30.11.1、上伊那圏域南部で重心児者の受入をしている3事業所とまつもと医療センターを見学した。 (ア) 飯島町社会福祉協議会 はばたき H29開所。日中、看護師2名常駐。現在、重心の方1名を受入。 (イ) 駒ヶ根市 しろくま 基準該当で重心児者を何名も受入している。定員10名、スタッフ20名、看護師8名。 (ウ) 宮田村 斎藤診療所 重心の方は5名登録有。伊那、駒ヶ根、飯島、宮田の方を中心に受入している。 (エ) 松本市 まつもと医療センター H30.5開所。定員100名中86名入所。上伊那の方も10名ほど入所。家族宿泊室や療育訓練室も完備。現在、入所待機者リスト26名。外来受診も3か月待ちとのこと。 <p>ウ 情報交換等</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活介護で重心の方を3名受けている。特殊浴槽を設計中で今後利用可能になると思う(アンサンブル) 伊那中央病院では子ども病院から転院してきた重心児のリハビリを主に行っているが、知識面やマンパワー不足もあり、現状、十分とは言えない。→地元の病院でリハビリが受けられるとありがたい(保護者) 信濃医療福祉センターでは、短期入所の土日受入等、可能かどうか分からないが、考えてはいる。 <p>(2) 介護老人保健施設の利用の様子について</p> <ul style="list-style-type: none"> はびろの里では、現在2名の重心の方を受入している。他事業所利用時より緊張している様子が見られるので、より安心できる環境を整え、提供していきたい。また、養護学校より新規に3名の申込があった。1名はキャンセルとなったが、1名は判定が通り、もう1名はこれから判定する予定。可能な範囲で受入したい。 伊南福祉会のフラワーハイツは、今夏から医療型短期入所の申請をした。現在、スタッフ配置等を準備中。 老健施設や医療機関全体への実情の説明等もお願いできればと思う(フラワーハイツ) <p>3 について(意見交換)</p> <ul style="list-style-type: none"> 前回お話いただいた当事者に今回もお話を依頼した経過をお伝えし、今後検討していくことになった(部会長) 難病成人の受診はあるが、比較的若い方が中心。難病の範囲が広すぎて漠然としている(伊那中央病院) 難病は特定疾患であるため、高齢者でも医療保険で訪問看護を利用している方もいると思う。 難病の方の利用時、どのような支援をすればいいのか、模索中。(NPO法人 COCO) 					
まとめ	<p>・伊那養護学校つくし進路福祉懇談会の振り返りを行い、来年度へ向け、より充実した会とする方向性を確認できた。医療機関や福祉サービス事業所、老健施設等での重心児者の受入の現状について、情報共有できた。</p>					
次回	<p>・詳細については、後日お知らせする。</p>					